住井すゑとその文学の里（四十三）

―牛久沼のほとり―

牛久市文化財保護審議委員
栗原（くりはら） 功（いさお）

住井の戦時中の小説
日本地理学の先駆・長久保赤水
―最初に経緯線を用いた日本地図を作成―

昭和18年（1943年）のNHKラジオ文芸番組で、住井の作品『農婦譚（のうふたん）』『土の女たち』が、樫村治子、夏川静江、宮田仲次郎、杉村春子、東山千栄子らの朗読で放送された。

住井はこの年2月に尊王歌人―佐久良東雄を、11月に日本地理学の先駆―長久保赤水をそれぞれ大阪の精華房から出版した。

長久保赤水は、徳川第8代将軍吉宗治政下の享保2年（1717年）に現在の茨城県高萩市赤浜、旧常陸国多賀郡赤浜村の長久保善次衛門の長男として生まれた。長久保家屋敷は水戸から北へ勿来（なこそ）を越えて陸奥へ通ずる岩城相馬街道沿いにあり、東方は太平洋の海原だ。長久保家は里正（りせい）を務める家柄で、遠祖は第56代清和天皇の皇孫源経基（六代の子孫が頼朝）だ。

赤水は号で、名は守道、これをのちに玄珠（たるたか）に改め、通称を源五兵衛（しもつづな）といった。16歳のときから隣村下手綱村の漢方医鈴木玄淳の塾に通い唐詩選などで漢文を学び、塾友の父親所蔵の地図に親しみ、水戸藩の儒官兼彰考館総裁名越南渓（なんけい）に四書五経などの儒学と漢籍全般の手解きを受けた。その才は多才で若くして松岡（赤浜村などの領主である中山家〈水戸徳川家家老〉領地2万5千石の範囲を指す）七賢人の名数に挙げられた。

赤水は本県が生んだ偉人の一人にも挙げられる人物だ。45歳になった宝暦11年（1761年）より諸国の見聞などに14年余りの歳月を費やして安永4年に『改正日本輿地（よち）（大地・地球という意味）路程全図（略称赤水図）』を作った。これは日本で最初に経緯線（経度と緯度）を用いた、かなり正確なしかも当時としては画期的な日本地図で、日本史年表の1ページには必ず書き込まれてある。4年後に序文を幕府儒官で寛政の三博士の名数に挙げられる柴野栗山に依頼して大坂の書店で出版された。安永9年（1780年）2月には小型の『縮改正日本輿地路程全図』と題して、今風に言えば旅行マップに似た装丁で出版され、これが庶民の間に広く定着するところとなり、明治初年に至るまでの約80年間に出版を重ねること8回（7回とする説もある）、ベストセラーになった。

幕末の志士吉田松陰は、兄事する肥後の宮部鼎蔵と共に嘉永4年（1851年）12月から翌年4月にかけての東北諸国遊歴中に、水戸の会沢正志斎を訪ねた後に、赤水の漢詩を愛読していたところからその墓に詣でた。もう一方松陰は同6年2月11日付けの大坂より兄あての手紙に「改正日本輿地路程全図之れなくては不自由故、当地にて相求め申し候、値三百八拾文夫れ故、御送り成され候に及ばず候（そうろう）」と書いて送った。

赤水図作成にあたって、赤水は実測をしていなかった。赤水図完成46年後に幕府命令で、測量技手伊能忠敬が実測に10年余りの歳月を費やして『大日本沿海輿地全図（略称伊能図）』を作った。現在の地図と比べて最大限2キロメートルの誤差しかない精密なものだったが、その原図になっていたのは赤水図であった。幕府では伊能図を国防上、国禁（持ち出し禁製品）に定め、書庫に保管され明治に至るまで世に出ることはなかった。ところが、御書物奉行兼天文方筆頭高橋景保が伊能図の縮図を複製、長崎出島のオランダ商館付医師シーボルトに渡し、これをシーボルトが文政11年（1828年）に国禁を犯して、しかも国外持ち出しを企てたため、公儀隠密間宮林蔵（※）に摘発された。シーボルトが天保11年（1840年）に著した『ニッポン』の中には赤水図に似た日本地図がかかれてあった。

赤水61歳、安永6年（1777年）に水戸藩の侍講（士分）に召し抱えられて第6代藩主徳川治保（27歳）に帝王学を講じ、70歳で隠居格になり、75歳で致仕（辞職）、85歳の長寿を保った。

※間宮林蔵は安永4年（1775年）に常陸国筑波郡平柳村（現つくばみらい市上平柳）の農家で生まれ、表職は幕府勘定奉行管掌下の諸職にあったが、裏職は老中首座大久保加賀守忠真直属の隠密（ぬけに）で、石見国の親藩浜田藩の抜荷（密貿易）事件などを摘発した。

➡長久保赤水肖像画。裃（かみしも）には長久保家家紋丸につる柏紋、小袖には水戸三つ葵紋が入っているが、これは水戸藩第6代藩主徳川治保（かし）より褒美として下賜されたものだ。高萩市提供。

⬆高萩市提供の長久保赤水が作った『改正日本輿地路程全図』。（株）暁印書館刊、長久保片雲著『地政学者長久保赤水伝』の序（文は前茨城県知事で参議院議員の岩上二郎）には『赤水の改正日本輿地路程全図』に松島（竹島）・北方（歯舞（はぼまい）・色丹（しこたん）・国後（くなしり）・択捉（えとろふ））四島いずれも日本固有の領土として鮮明に記録されている…とある（昭和53年5月）。